

伊丹市養護教諭部研究会グループ研究会

A班グループ員：	松田 弥生	(伊丹小学校)	北畑 早貴	(伊丹小学校)	
	高階 美月	(稲野小学校)	笠谷 はるか	(南小学校)	
	岡本 尚美	(南小学校)	下田 あずみ	(南小学校)	
	安部 梓	(神津小学校)	中谷 孝子	(緑丘小学校)	
	福井 千栄	(桜台小学校)	富岡 美佐子	(天神川小学校)	
	衣笠 和子	(天神川小学校)	大森 明美	(笹原小学校)	
	野原 千晶	(笹原小学校)			
	B班グループ員：	篠崎 葉子	(瑞穂小学校)	服部 寛子	(有岡小学校)
森 千紗		(有岡小学校)	升井 嘉澄	(花里小学校)	
片山 美奈		(昆陽里小学校)	内藤 久理子	(摂陽小学校)	
丸山 弥生		(鈴原小学校)	小林 理加	(荻野小学校)	
宮崎 奈津子		(池尻小学校)	大西 郁美	(鴻池小学校)	
高橋 優子		(伊丹特別支援学校)			
C班グループ員：		小山 真由子	(東中学校)	村田 成江	(西中学校)
		フォス 智恵美	(南中学校)	田中 淑子	(北中学校)
	村井 仁美	(天王寺川中学校)	大久保 佑紀	(天王寺川中学校)	
	鶴川 由佳子	(松崎中学校)	大村 由布子	(荒牧中学校)	
	大下 由貴	(笹原中学校)	蔭木 恵子	(伊丹高等学校)	
	岩崎 好美	(伊丹高等学校)			

担当指導主事：八束 伸明

キーワード：養護教諭の役割 情報交換 てんかん 足育 救急体制

1 研究テーマ

「養護教諭の役割と機能を考える」

2 研究内容

(1) 全体会

兵庫県養護教諭研究会連盟、伊丹市学校保健会、伊丹市健康診断検討委員会、伊丹市アレルギー対策委員会の協議事項や連絡事項について共通理解を図った。また、健康相談活動、健康教育、保健室経営などについて情報交換を行った。

(2) 班別研究

① A班(小学校)

ア 研究テーマ：「てんかん発作における対応の充実を目指して」

イ 内容

てんかんは、約100人に1人の割合で発症する脳神経の病気である。てんかんの持病を持った児童生徒が安心して安全に学校生活を送るためには、教職員がてんかんについての正しい知識を持ち、発作時に適切な対応をとることが重要であると考え、校内研修や救急対応時に活用する資料の作成に取り組んだ。

ウ 成果

てんかんに関する情報交換や、各校の救急体制を比較・検討し意見交換を行う中で、研修が深まり、A班で共有できる資料が作成できた。

② B班(小学校・特別支援学校)

ア 研究テーマ：「足育～足元から考える子どもたちの健康～」

イ 内容

(ア) 各校で、実際にフットプリンターを用いて足型を測定し、その児童に「足についてのアンケート」をとった。フットプリンターのデータおよびアンケート結果から、子どもの足の現状を把握した。

(イ) 足育の必要性について学び、各校の活動や文献を参考にしながら保健指導を行った。

(ウ) 子どもたちに、より足育を広めるために、掲示物やほけんだよりの作り方について情報交換した。

ウ 成果

(ア) 各校児童の足の状況や児童の足を取り巻く状況を把握し、保健指導にいかすことができた。

(イ) 足の健康づくりについて、授業参観や保健委員会、ほけんだよりや掲示板等を通じて、児童や保護者へ情報発信できた。

③ C班(中学校・高等学校)

ア 研究テーマ：「事故発生時の救急体制」～アクションカードの実用に向けて～

イ 内容

(ア) 平成28年度の班別研究で作成したアクションカードを見直し、内容やレイアウトを検討した。

(イ) アクションカードを使用したシミュレーション研修を想定し、役割ごとの動きを時系列でまとめた「シミュレーション研修表」を作成した。

(ウ) 中学校・高等学校の養護教諭で、「アクションカード」、「シミュレーション研修表」を使用し、同室内で仮の場所設定をして、シミュレーション研修を行った。

ウ 成果

(ア) アクションカードを見直したことで、各役割の内容が深まり、より実用的なカードを作成することができた。

(イ) シミュレーション研修表を作成することで、現場以外の役割が明確化され、全体を通しての動きや問題点を再確認できた。

(ウ) シミュレーション研修後、全員で振り返りを行ったことにより、救急場面で必要な行動を改めて認識することができた。

(3) 夏季研修会

日時 平成29年7月31日(月) 13:30～15:30

内容 施設見学 伊丹市こども発達支援センターあすばる

(4) 伊丹市養護教諭研究協議会

日時 平成30年2月16日(金) 13:30～16:45

内容 研究経過報告

講演 演題 「保健室の整理収納術～子どもと向き合う時間を作るために～」

講師 整理収納アドバイザー、親・子の片付けマスターインストラクター

加藤 真由美 先生

3 成果と課題

(1) 成果

① 全体会では、情報交換を通し課題の共通理解ができ、各学校で適切に対応していくことができた。特に、保健室に係るデータ管理について市内で統一していくことについて共通理解し、改善に向け準備ができた。

② 班別研究では、救急処置・保健管理・保健指導の観点から、養護教諭の専門性を活かした取り組みができた。

- ③ 研究協議会を開催することにより校種を超えて問題意識を共有し、さらに研究を深めることができた。
- ④ 講演会では、仕事の効率アップにつながる保健室の収納についてや、保健室を癒やしの空間とするための工夫について学んだ。

(2) 課題

- ① 今年度から取り組みはじめた、保健室に係るデータ管理について、有効にデータ活用されるよう検討していく必要がある。
- ② 研究で取り組んだ内容について、家庭や関係機関と連携したり、校内体制を整備したりする必要がある。時代の流れとともに変化する児童・生徒の健康課題を的確に把握し、柔軟に対応していけるよう研修・研究をすすめながら実践を重ね、養護教諭としての力量を高めていきたい。